「本を読む時間は、自分で作るもの!」との恩師の教え

最近の HP にたまたま読後感の記事が続いたからか、ある学生から「どうして色んな本を読み、また読むのがこんなに早いのですか?」と聞かれた。

若い頃に、上司の Dr に同じ質問をしたことがある。

Drは本を読むのが早く、次々と本を紹介してくれた。

しかも紹介してくれた本は、D r の専門分野の書ではなく、我々が専門としなくてはならない重度重複障害児(重症児)の療育に役立つと思われる本や原著だった。

原著は英語が苦手な自分だけに翻訳に戸惑っていると、わざわざ翻訳してくださった。

乳児が人との係わり形成の最初の指標となる「快の情動反応(おはしゃぎ反応)」、ミラニーによる乳幼児期の「自発運動・誘発反応の相関表」、また、エブハルトによる乳幼児期の手の「つかみの発達表」の存在を知ったのも Dr の紹介だった。

また、Drは、「脳の働きと行動(価値基準)との関係表」を考案・作図して、学んだ知識を自らの生きよう(様)へどう活用するかの知恵を、解り易く解説・ご指導くださった。

インターネットのない当時、「こうした原著は、どこで手に入れるのですか?」と聞く と、「上京した時に、各国の文化センターに行くんだよ。」との答え。

Dr の仕事で忙しいだけに、「いつ読む時間があるのですか?」の問いに、「読む時間は自分で作るもの!特急の中は本を読める貴重な時間(注:当時は新幹線はなく、東京まで特急で往復8時間の時代)だよ。

それにしても、サラリーマンたちは、どうして特急の中で家に持ち帰って子どもに見せられない週刊誌などを見るのだろうか?」と、逆に問われたことが今も記憶に残っている。

あれやこれやの今の自分の基礎的な知識や思考は、大学での勉学はトンと役立っておらず、恩師である Dr のお陰であの頃に形成されたと思っている。

恩師の言葉を思い出すと本を読む時間はないとは云えないし、仕事であの忙しい中での 恩師の読書欲、知識欲に感化されただけに、今でも少しでも足下に近づければと思ってい る。

人に影響を及ぼした恩師には程遠いが、メル友から「HP の読後感を、本の購入の参考にしている。」とメールをいただくと、やはり嬉しいもの (^ ^:)